

カラマツホダ木からのクリタケ, ナメコ, ムキタケの発生量

1 目的

岩手県は広大なカラマツ林を有しており、生産される材のうち中径材以上は集成材等を使用されているが、小径材の需要は少ない。一方、カラマツ材中には菌系成長促進物質が含まれるため、他の針葉樹材に比べてきのこ原木栽培への利用性が高い。そこで、きのこ原木栽培によるカラマツ小径材有効利用の可能性について検討するために、カラマツを原木に用いてきのこ栽培試験を行った。

2 材料と方法

種菌は発生温度が15 前後のクリタケ、ナメコ、ムキタケを用いた。

原木は、カラマツ、コナラ(長さ約90 cm、直径約12cm)を用いた。

植菌は平成10年3月に行い、植菌駒数は4×3の千鳥植え(原木1本当り約20駒)、植菌深さ25mm、各条件50本を林業技術センター内の広葉樹林内で試験を行った。

3 結果

いずれのきのこも、カラマツホダ木から発生した。5年間(H11~15)の総発生量は、カラマツホダ木では、クリタケ34.5 kg/m³、ナメコ26.1kg/m³、ムキタケ13.5kg/m³であった。また、コナラホダ木では、クリタケ55.9kg/m³、ナメコ42.9kg/m³、ムキタケ29.4kg/m³であった(図1~3及び写真)。

カラマツは、最初の発生から3年目までに総発生量の95%以上が発生した。

5年間の総発生量は、樹種別では コナラ>カラマツ、菌種別では クリタケ>ナメコ>ムキタケとなった。

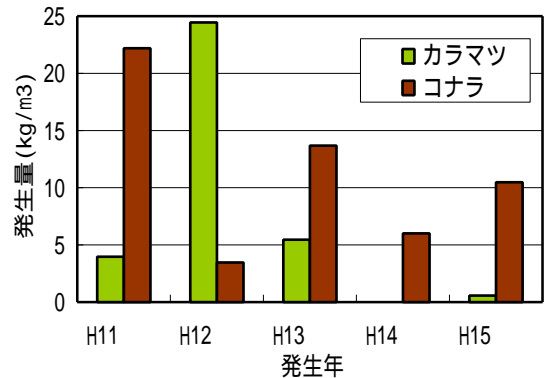


図1 樹種別クリタケ発生量

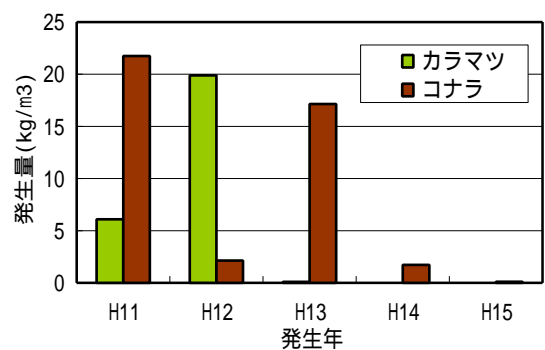


図2 樹種別ナメコ発生量

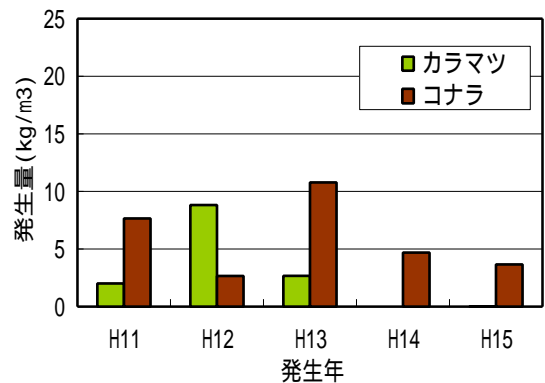


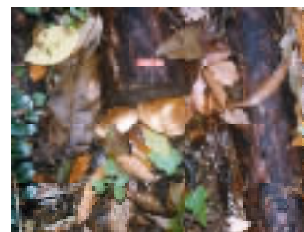
図3 樹種別ムキタケ発生量



クリタケ



ナメコ



ムキタケ

写真 子実体の発生状況

(担当 林産利用部 技師 杉浦 由美)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410